

■橋本閑雪 日本画家。幼くして登場、のち師になった竹内栖鳳をライバルに、猛烈な中国愛国者として生涯を送った。

はしもとかんせつ

岩倉具視没・1883＝ 神戸坂本村(現中央区楠町)で、旧明石藩の儒者橋本小六海関の長男に生まれる、母はフジも書画を嗜む。

内閣発足・・・1885＝ 2歳：妹チエが生まれる。

国民之友始・1887＝ 4歳：この頃、母フジが橋本家を去る。

初の対等条約1888＝ 5歳：この頃、明石の母の実家池田家で二年間程暮らす。

帝国憲法発布1889＝ 6歳：

帝国議会始・1890＝ 7歳：神戸市湊川尋常高等小学校に入学。

大本教・・・1892＝ 9歳：父の極端な放任主義のもとに育ち、

日清戦争始・1894＝11歳：

日清戦争終・1895＝12歳：片岡公曠に入門。京都開催の第四回内国勲業博で席上揮毫。小学校を中退。漢詩と歌俳句を嗜み始める。

白馬会・・・1896＝13歳：「静御前」。早くも閑雪の号を使い始める。

子規句歌革新1898＝15歳：画家を志し上京するも、半年後に帰る。この頃祖母マサ、妹チエが没。

Bushidou・・・1899＝16歳：父海関が隠棲して自活を余儀なくされ、尾上村の尼寺に住み、高砂の実業家岸本恒太郎の庇護を受ける。

ビア/国産化・1900＝17歳：「閑雪詩稿」刊行。***神戸美術協会主催東宮御慶事記念展覧会に「王昭君」出品し、御前揮毫。**

田中正造直訴1901＝18歳：高砂曾根神社に絵馬「菅公図」奉納。

教科書疑獄・1902＝19歳：「達磨大師像」。

日比谷公園・1903＝20歳：光村印刷創業者の光村利藻の知遇を得、その援助と紹介で竹内栖鳳(竹杖会)に入門。以後、各地で写生。

日露戦争始・1904＝21歳：岩見ヨネと結婚。

日露戦争終・1905＝22歳：長男誕生。襖絵「秋桜猿猴図」を描き尼寺を出る。東京美術研精会展覧会に「四面楚歌の声」出品し研精賞。満州軍総司令部囑託として日露戦争に従軍し、各地で写生。

満鉄発足・・・1906＝23歳：満州より帰国。この頃、宮崎翠濤らと神戸絵画研精画会を興し、機関紙(白毫)を編集発行。

韓国反日暴動1907＝24歳：高砂曾根神社に絵馬「牛図」奉納。神戸で「従軍記念画展開催。第一回文展に「達磨と五和」出品するも落選。

アヲホ創刊・1908＝25歳：文展「鉄嶺城外の宿雪」初入選。単身上京、友綱部屋に居候後、谷中に住む。国画玉成会「北燕の秋」入選。

伊藤博文暗殺1909＝26歳：次男誕生。文展「失意」が褒状。

韓国併合・・・1910＝27歳：長女誕生。生活困窮。岸本家の誕生祝いに「鯉図」を描く。漢詩集「閑雪詩稿」出版。文展「琵琶行」褒状。

大逆事件判決1911＝28歳：文展「片岡山のほとり」が褒状。

明治天皇没・1912＝29歳：明石に土地を購入。***文展で「松下煎茗」が一科褒状、「後醍醐帝」が二科褒状という離れ業。**

大正政変・・・1913＝30歳：初の中国旅行に出、帰国後、岡崎の徳成橋畔に移る。文展「遅日」が二等賞。以後、経済的に恵まれ、

第一次大戦始1914＝31歳：白沙村荘の土地を購入。明石二見小学校のため「瀑布図」制作。二見の別荘蟹江鱸山荘完成。以後、関西各地に次々屋敷を持つ。東京大正博覧会で「桃花郷」銀賞。文展で「南国」が二等賞、「後苑」を無鑑査出品。

21ヶ条要求・1915＝32歳：南禅寺山内金地院に移る。文展で「狐」が二等賞、「峽江の六月」無鑑査出品。

民本主義・・・1916＝33歳：白沙村荘完成し移住。文展で「寒山拾得」が特選、「煉丹」無鑑査出品。

ロシア革命・1917＝34歳：井伏鱒二の入門を断る。大津の土地を購入。文展で「倪雲林」が特選。東京三越で個展、以後度々。

本格政党内閣1918＝35歳：同志と神戸絵画協会結成。文展「木蘭」無鑑査出品。中国各地で写生。以後、毎年のように中国旅行。

べルリン条約・1919＝36歳：第一回帝展審査委員、郭巨「遊踪四題」。以後、委員続く。門下生により(新篁会)が結成される。

大暴落・・・1920＝37歳：帝展「木蘭詩」「林和靖」。東京博覧会審査委員、「木蘭詩巻」。

原敬首相暗殺1921＝38歳：長男伴い、ヨーロッパ旅行、フランス中心に旅行、ルノアールの故居を訪問後、ウワリーを伴い帰国。

水平社結成・1922＝39歳：平和記念東京博覧会日本画審査委員。新篁会複製会開催し、ミケランジェロ「アダムの創造」など出品。ウワリーがドイツに帰国。帝展「聖地の旅」。銀閣寺畔第二疎水に桜の若木を植える。

関東大震災・1923＝40歳：浦上玉堂の遺族を訪ねる。{竹杖会}を脱会。

護憲三派圧勝1924＝41歳：上海で海蘭芳の舞台を見る。京都で岸田劉生に会う。帝国美術院委員。「南画への道程」出版。

治安維持法・1925＝42歳：自選三〇題展。中央美術記念展に「採算」。帝展「相牛」「摘瓜図」。「閑雪随筆」出版。新篁会解散、帝展審査委員も辞退。この年までに、二十数回の中国旅行を経験。

円本時代始・1926＝43歳：古画の研究鑑賞を目的に同志と(解衣社)結成し、第一回展に「湘江煙雨」「看馬」。第一回聖徳太子奉讃展日本画代表委員として「僊女図」。「石濤」出版。岸本恒太郎の死を悼み、「観音像」を描く。同志六人で(六合会)を創立第一回展に「長安一片月」出品。「浦上玉堂」出版。

金融恐慌・・・1927＝44歳：妻と娘を伴って二度目のヨーロッパ旅行、十数カ国を巡る。この頃から外国美術のコレクションを始める。朝日新聞社主催明治大正名作展に「遅日」「木蘭詩」。再びヨーロッパ旅行に出、

共産党事件・1928＝45歳：帰国。「続閑雪詩稿並南船集」出版。帝展に(竹内栖鳳を風刺した)「意馬心猿」。

世界恐慌・・・1929＝46歳：上海に別荘購入。パリ日本美術展「瀟湘」がフランス政府買上げ。帝展「長恨歌」がドイツ日本美術展に。

海軍軍縮条約1930＝47歳：徳太子奉賛展「波二鷺」。ローマ日本美術展「猿猴図」「曠日の図」。自動車事故で負傷。帝展「訪隠図」。

満州事変・・・1931＝48歳：トledo市・ニューヨーク市日本美術展に「木蘭詩巻」。その後ボストン美術館へ寄贈。パリ開催日本美術展の功で、シュバリエ・ド・レジョン・ド・ヌール勲章。

五一五事件・1932＝49歳：上海事変で別荘が破壊される。妻ヨネが急性肺炎のため死去。「走井」発行。

国際連盟脱退1933＝50歳：「不離心帖」発行。「ベルリン民族博物館キュンメルのため「雨後の朝」贈る。帝展「玄猿」無鑑査出品、文部省買上げ、代表作に。岩崎家が献上する「進馬図」屏風。満州国美術同人院創設され、名誉会員。

帝人疑獄事件1934＝51歳：京都美術館開館記念展に「夕月」。個展。近代美術館建設期成会の発起人。***満州国皇帝に「老松鷺図」献上。来訪の鄭孝胥満洲国総理に「細雨春帆」を贈る。帝展「暮韻」、宮内省買上げ。帝室技芸員に任命される。高砂の岸本家を訪ね、若い頃の作品を焼却。**

芥川直木賞始1935＝52歳：父海関が死去。「山鳩」「長恨歌」。ようやく帝国美術院会員に任命され、(新篁会)再興。

二二六事件・1936＝53歳：宝塚に土地(冬花庵)を購入。「暖日」。改組第一回帝展に「唐犬図」。動物画も多い。同志六人で(幽興会)結成。横山大観ら四人と、帝国美術院に辞表。上海のダンスホールで軍人と大喧嘩し、新聞ダネに。

日中戦争始・1937＝54歳：白沙村荘で盛大な茶会開催。盲腸炎罹患。「玄猿」「木蘭詩」「雨後の月」。「夏草」。帝国芸術院会員に任命される。第一回新文展に「赴征」。中国旅行中、戦争始まり山海関より引き返す。

健保+総動員 1938＝55歳：朝鮮京城で漢詩を南次郎総督へ贈る。第十七回朝鮮美術展日本画審査委員。「風」「涼宵」「夕月」「兎」。「精神興揚国民百人一首」発行し無償配布。「白衣の勇士」百余名を招き、白沙村荘で園游会。

第二次大戦始1939＝56歳：「霜猿」制作を記録した映画「湧き出づる姿」発表試写会。「冬晴」「後園残秋(秋園)」。「閑雪詩存」出版。「大楠公」「抑暖」「水郷」。第一回聖戦美術展審査員、「江上雨來る」。ニューヨーク万国博に「霜猿」出品し、好評。橋本閑雪聖戦記念画展「軍馬二題」が朝日賞。

大政翼賛会・1940＝57歳：「柳蔭馬を洗ふ」。「支那山水随縁」出版。井上靖が来訪。紀元二千六百年奉祝美術展覧会委員。建仁寺方丈襖絵六十面が完成。この頃、大連の割烹店「たまくら」の女主人の依頼で牡丹の額を描く。

日米開戦・・・1941＝58歳：橋本閑雪聖戦記念画展。仏印巡回日本画展内示会に「水郷急雨」。新文展に「夏夕」。

・・・・・・1942＝59歳：「時宗」「夏夕」。吉川英治と南方従軍旅行。新文展に「防空壕」。満洲建国十周年慶祝展に「髪」。橋本閑雪南方連作展。軍用機献納展に「春潮」。

創価学会検挙1943＝60歳：脚本「佐藤兄弟の妻」上演。「南を翔ける」出版。霊山護国神社に「殊勲」奉納。新文展に「霧」。生涯六十数回に及んだ最後の中国旅行。

年金+総武装 1944＝61歳：艦艦献納展に「牛」。第一回大東亜戦争美術展に「黄浦江の朝」。平安神宮御鎮座五十年平安遷都千百五十年奉祝京都市美術展審査委員。陸軍献納画展に「霜鷹」。戦時特別文展に「香妃衣裳」。小泉策太郎収蔵の仏像譲り受けの相談のため、息子節哉を横浜に遣わす。

敗戦・・・・・・1945＝62歳：狭心症の発作により没した。

ミネルヴァ書房「橋本閑雪」、「この人どんな人」、